

行政視察報告書

令和5年2月12日

長浜市議会議長

様

長浜市議会議員

矢守 昭男



私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 恵風会 会派 行政視察
2. 視察期間 令和 5年2月7日(火)～8日(水)
3. 視察場所及び目的
 - ① 茨城県 桜川市 ・公立病院の再編について 研修
 - ② 東京都中央区日本橋 ・東京長浜観音堂 視察
 - ③ 東京都国会議事堂内 内閣官房こども家庭庁設立準備室 研修
 - ・不登校児童生徒への支援について・児童虐待対策の推進について
 - ・我が国の少子化の現状及び対策について
 - ・ヤングケアラー支援の現況について

4. 調査内容感想等

・視察の目的

- ① 長浜市の病院再編について、他市の成功例を参考に視察
- ② 東京長浜観音堂の現状把握のための視察
- ③ こどもを取り巻く現状、環境を知り、問題解決の参考にするための視察

・視察の内容

- ① 公立病院再編について、第1回目の筑西・桜川地域公立病院等再編整備推進協議会が行われて、新中核病院及び桜川市立病院整備にあたり、『筑西・桜川地域公立病院等再編整備推進協議会』が設立され、公立病院等再編基本構想により整備計画が進められていることになり、基本構想の策定や審議に関する情報や関係機関との連携体

長 浜 市 議 会

制で関連大学関係者、学識経験者、医師会代表、各病院長、市議会代表、各市長代表等の関係者により会議が進められ、市役所職員の組織機関の変更で特に期待が持てる効率的な行政運営の再編について、産業立地とまち・ひと・しごと創生や高齢者福祉、介護保険や認定と学校の教育課程と学習指導など行い、行政として課の廃止・業務所管移行を進められた事が成功事例として参考にあたいする内容でした。

次に病床規模・機能分担の協議について、新中核病院及び桜川市立病院を合わせた必要な病床数が最大452床、最小313床と推計されての合意内容として合計370床程度の数値計算をされ新中核病院としての役割、機能について検討され、そこで病院等再編が進み、第4回筑西・桜川地域公立病院等再編整備推進協議会が8月26日に筑西合同庁舎で開催されて、新中核病院・桜川市立病院整備基本構想が確定されました。

基本構想が策定されパブリックコメントの44名、137件の意見を市のホームページで発表され情報を共有して、多くの地域の方々の理解と協力を頂いた点について長浜市もアンケート調査内容など参考資料としていきたいです。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

今後の長浜市の4つの病院の医師不足として病院統合ではなく再編計画について慎重に取組体制づくり重要性や市民協働のまちづくり、地方公営企業、地方独立行政法人、指定管理者制度など、あらゆる模索機関との会議の重要性、市民サービス向上に向けた準備、議論を深める事について長浜市にとって有意義な視察研修を行いました。

② 東京長浜観音堂の現状把握のための視察について

視察の内容

長浜市は『観音の里』として知られていますが、古くから地域の方々により100を超える観音像が大切に守り継がれています。現在でも観音さまめぐりコースとして国宝、重文、流転、戦火、馬頭、余呉湖・湖北庭園等テーマ毎に観音さまを回るツアーが人気となり全国各地から長浜市の各地へ観音さまツアーを企画しながら観光のひと役を担っています。

そこで東京長浜観音堂の第4回会期の十一面観音坐像が東京初出陣で多くの方々、滋賀県民ゆかりの方々が来場をしてお聞きしました。

行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

今後も継続的に東京長浜観音堂での長浜市の観音さま文化を全国各地で観光、文化の継承も含めて続けていきたいと思われました。

視察の内容

③ こどもを取り巻く現状、環境を知り、問題解決の参考にするための視察を行いました。

1. 不登校児童生徒への支援について

不登校の現状として小・中学校の不登校児童生徒数は9年連続で増加しておられ、令和3年度は過去最多の約24.5万人となり、長浜市同様に深刻な状況となります。

文部科学省の支援として不登校児童生徒への主な支援で不登校増加要因の詳細分析で対策の検討をおこない、教育支援センター（適応指導教室）の設置の推進（R3年度1,634）施設あります。

また不登校特例校の設置の促進が有りますが、教育課程の基準がありますが、県に

1校とまだまだ少なく課題解決策には程遠いとおもいました。(R4年開校数21校)

今後の対応として全てのこどもへの居場所づくり等の中で不登校のこどもへの居場所の確保や、アウトリーチ活動、支援が必要と感じました。

教育機会確保法等の下で学びと育ちの両方の観点からの支援に期待が出来る取り組み支援を行いたいと思います。

2. 我が国の少子化の現状及び対策について

少子化の現状について令和3年では81万1,622人で団塊のジュニア世代は毎年約200万人生まれていました。また合計特殊出生率1.30と減少傾向にあります。現在の傾向が続けば、令和47年には人口が8,808万人まで減少する傾向があり心配されます。

視察研修を受けて長浜市として少子化の現状を踏まえて子育て支援を充実させ全ての子ども達に希望の持てる環境整備計画や経済的不安解消での支援体制で、家庭支援の更なる充実した拡充など考えていくことを感じました。

3. ヤングケアラー支援の現況について

ヤングケアラー支援については、長浜市内での実態調査が行われません。

残念ですが、全国各地でヤングケアラー支援として実態調査が進む傾向ですが、家庭、学校や友達間でのヤングケアラーについての意識啓発が少なく、世話をする家族の有無や世話の対象者、世話による影響など実態調査を行わないと早期の対応策には繋がらない場合が多くみられる調査結果が有ります。

そこでヤングケアラー支援に向けた取り組みとして福祉、介護、医療、学校等、関係機関におけるヤングケアラーに関する研修が十分でなく、今後の迅速な対応やマニユ

アル対応など広報活動などを行い社会的な認知度向上を長浜社会福祉協議会と連携して実態調査を行い更なる充実したヤングケアラー支援を行っていきたいです。

④ 児童虐待対策の推進について

児童相談所での児童虐待相談対応件数と推移について児童相談所での虐待相談内容では、令和3年度 身体的虐待、ネグレクト、性的虐待、心理的虐待など20万7660数の集計データがありました。そうしたデータをもとに長浜市でも対応強化等を更に進め頂きたい。

また児童虐待防止対策の更なる推進について令和4年9月2日

(関係閣僚会議決定) こどもの権利、環境整備、意見聴取、意見表明、体制整備を着実に実施されます。

児童相談所及び市町村の体制強化として、こども家庭センターや児童虐待防止対策総合強化プランに代わる次期プランを年内に策定や妊産婦等の生活援助事業や産前産後ケア事業を全国展開されるなど期待が高まっています。

行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

今回の視察研修を受けて子ども達の不登校児童生徒への居場所づくりから相談窓口業務の強化や全ての子ども達が笑顔のある長浜市に

ヤングケアラー実態調査を行い支援対応策し、児童虐待の課題解決策に向けて長浜市として取り組める行政視察となりました。